

令和3年度 第2回郡山市総合教育会議 議事録

【日時】 令和3年11月25日（木） 13時30分～14時30分

【会場】 Web 会議

【次第】 1 開 会

2 市長あいさつ

3 議 題

(1) 児童生徒の不登校・いじめ等について

(2) 小中学校におけるタブレット端末の活用状況及び弊害の防止策について

4 その他

5 閉会

【出席者】 7名（敬称略）

郡山市長	品川 萬里
教育長	小野 義明
教育長職務代理者	阿部 亜巳
教育委員	今泉 玲子
教育委員	阿部 晃造
教育委員	藤田 浩志
教育委員	田中 里香

【事務局】 5名

副市長	村上 一郎
政策開発部長	塚原 馨
市民部長	佐藤 直浩
教育総務部長	朝倉 陽一
学校教育部長	小山 健幸

1 開 会

2 市長あいさつ

○品川市長

メディアの歴史を振り返ると NHK がテレビ放送を始めた時は、ラジオ放送が主流で、最初はみんな不満を言いながらテレビを見ていたが、今ではテレビが主流となった。同じように web 会議がメインで顔を合わせるのが例外となる時代がくるのではないか。授業も対面が例外でオンラインが通常となることもありえなくはない。

今日の会議のテーマ(不登校・いじめ等)は連日のようにニュースで報道されている。異常事態として片づけるのではなく、起こる確率が高いこととして対応しなければならないと感じている。また、学校教育を考えることは、自分の人生を振り返ることと表裏一体だと昨今感じている。会議に出席しているみなさんも、学校教育は自分の問題と捉えて議論していただきたい。

3 議題 (1)児童生徒の不登校・いじめ等について

(学校教育部長からいじめの認知に関する変遷について補足説明)

○小野教育長

いじめ防止等については、各学校できめ細かな対応をしてもらっている。基本的には一人ひとりに寄り添った教育を丁寧に進めること、子どもたちが安全、安心に学校教育活動を進められるように教育環境を整備することが大切と考えている。

○今泉委員

いじめについては驚くほど問題が起きていると感じる。私の幼い頃のことを考えると、色々な人、色々な考えに触れることで成長してきた。色々なことを体験したり色々な世界に触れることで、他人に配慮ができる人格形成、人間関係を重視した教育が望まれると考えている。

○阿部亜巳委員

過去のいじめに関する裁判例を見返すと、多くの事案が些細な悪ふざけやからかいから始まり、それがエスカレートしていくケースが多い。いじめにエスカレートする前の小さなトラブルの段階で、いかに問題を解決していくかという視点が重要だと感じている。いじめ防止対策推進法制定のきっかけになった、平成 23 年に滋賀県大津市で発生したいじめ自殺事件では、大阪高裁の事実認定によると、被害者と加害者は 1 学期の頃は比較的仲が良いグループにいたが、2 学期になってから、被害者が常に悪ふざけを受ける関係に変化していった。これを大阪高裁はいじめ関係の固定化への過渡期があったと認定している。こういった事案をみても、やはり、いじめ関係の固定化の過渡期の段階で、誰かが手を差し伸べていれば悲惨な結果は防げたのではないかと強く感じる。こういった過去の事例を分析し、郡山市のいじめ対策に応用できるところを取り入れ

ていくといいのではないか。

○藤田委員

いじめの認知について、悪ふざけなどの小さな段階からいじめと認定することで早期解決を目指すという方針が、保護者に伝わっていないのではないかと懸念している。保護者は、保護者が子どもだった頃のいじめのイメージ(暴力、孤立など重大な案件)をいじめと捉えている可能性が高い。そのような認識のままでは、保護者がいじめに対する反応が頑なになってしまう。

保護者に対して、悪ふざけなど小さな段階からいじめとして認知し重大化を防ぐという方針をしっかりと伝えていかなければならない。行政だけではなく、保護者側のいじめに関する知識をアップデートしていくことが重要と考える。

○阿部晃造委員

今朝、いじめの事件のニュースを見て衝撃を受けた。大人の世界で起こっていることが、子どもの世界でも十分起こりうるようになってきたと感じている。先生だけで防げる問題ではない。藤田委員が言ったように、保護者や地域のコミュニティなど色々な人が関わって、少しでもいじめが起りうる要因を取り除かなければならないと思っている。当事者だけでなく色々な方が協力し最悪の事態にならないようみんなで対応していかなければならない。

○田中委員

阿部委員が言ったように、家庭や地域など色々な方面から目を配って子どもを一人ひとりを見ていくことが必要だと感じる。自分の幼いころを思い出すと、昔からいじめは多少なりあったと思う。今の状況ではネットやスマホを介したいじめがあり、周りから見えづらくなってきていることを心配に思っている。

○品川市長

委員のみなさんご意見ありがとうございます。新聞等をみていて、いじめの属性分析(5W1H)があまりないように感じる。いじめの件数だけに注目するのではなく、5W1Hと因果関係、相関関係を分析してみるのも有効ではないかと考えていた。

続いての議題、タブレットを使った教育についても、いじめを発生しないように、また、円滑なコミュニケーションに役立つようにするにはどうすればいいのか議論していきたい。

3 議題(2) 小中学校におけるタブレット端末の活用状況及び弊害の防止策について

(教育研修センター所長から補足説明)

○阿部亜巳委員

今回このテーマを提案したのは、東京都町田市で起こった小学校6年生の女子児童が、タブレット端末のチャット機能による悪口の書き込みが原因で、自殺してしまった事件がきっかけとなった。タブレット端末が児童に普及し授業に活用されることは大変いいことと思っている。一方で、それに伴う弊害も生じうるため、対処をすべき必要があると考えた。これからの子どもたち

はインターネット環境と密接な関わりをもって成長していくことは間違いないため、情報モラルに関してしっかり勉強できる環境をつくっていくことが大切。

○小野教育長

これまで34校の学校を訪問したが、子どもたちがタブレット端末を学習ツールとしてしっかり活用していた。一人ひとりがタブレット端末を利用するうえでの約束を守ることを低学年から徹底することが大事だと考えている。情報モラル教育と健康の管理については、児童生徒に対する指導、教職員の研修、保護者の協力の3つの視点がきわめて重要。これらを踏まえて、これからも安全に安心してタブレットを使用した学習活動が充実するよう各学校をサポートしていきたい。

○学校教育部長

各学校タブレットを活用し授業のスタイルが変わってきている。スタイルの変化を学力の向上に繋げていくために、教職員の研修の充実や子どもたちの情報モラルの育成に努めていきたい。

○品川市長

タブレット端末などから得る情報コンテンツに関しては、悪影響を与える情報からいかに児童生徒を守っていくか考えていかなければならない。我々も事例を集めて、この会議で知恵の交換をできればと思っている。

最後に、次回の会議に向けて、阿部亜巳委員には、司法の判例の研究材料をいただければと思っている。阿部晃造委員には、教職員の参考となるよう、経営者のネットを使った社員教育について情報いただければありがたい。田中委員には、web上の情報に起因したメンタル障害の症例があればお話しいただきたいと思っている。今泉委員には、色々な問題が起きた時に、ファッションの力で問題を解決する手段や体験があれば教えていただきたい。藤田委員にも、多角的な面から話題提供をお願いしたい。

次回に向けて、私からは、デジタル庁が発足したことにより、これから国の政策全体がどのような方向に向かうのかみなさんに情報提供したい。また、夜間中学の問題について、市長部局がどのように対応しなければならぬか次回ご報告申し上げたい。

4 その他

なし

5 閉会